

(中略)

安田：たくさんの公職にもつかれてますが、お世話様です。  
 宇野：公職ってのはしょうがないんです。一つは若い頃、榎本設計でお世話になった。お世話になったが榎本博庸って人は亡くなったわけです。恩返ししたくとも、亡くなった人に対しては何もできないわけですが、次に明智克夫という人がいて、僕のボスですよ。辞めるときに3年だけ時間下さいって、3年たったなら人の役に立ちますって約束したんです、社会的な役。その間だけは私を当てにしないで下さいって。3年してね、学生賞、若い連中を育てなきゃいけないっていうので写真撮ったり4~5年やったのかな。7年目から審査委員にさせられて、11回目で審査委員長やれって言われて。13年目から座長。20回くらいまで会をまとめましようっていう。立ち上げた桑田さんとか明智さんとか士会の周郷さんとかね。3年たったならなんか少しね、自分のことだけでなく。社会的なこともね、一応約束は果たしたっていうことになりますか。

安田：50前ですよ。

宇野：そうですね。45歳くらいからですね。多少の恩返しっていうか。

富島：会長になられて何年ですか？

宇野：今3年。でもそろそろいいでしょうね。

安田：耐震判定協議会の会長もやっていただきましてお世話になり有り難う御座いました。

(中略)



宇野：ちょっと教会の話をしてしましようか。教会って面白い。さっきの吉阪さんの話に戻りますけど。25歳くらいにロンシャンをみたい、僕はお金ないからやっとな借金して行くんですよ。吉阪さんの研究室生達と同席したのですが、ローマからパリまで車で行くんですけど、彼らは途中で分かれてレンタカー借りてロンシャン見ると言うんですよ。俺もみたいが、金もないし、涙をのんでねえ。(かなり悔しそうでした)

それから20年くらい後、事務所開いてから年1回旅行する事に決めるので、ある時里昂からパリまで15時間くらいかな、バスで移動。ロンシャンについたら30分ですよ、ロンシャン見たくて行ったのに、着いたらもう行きますよって言われたんですよ。なんなんだよ、じゃ悪いけど降りるわって、後で追っかけるからって、それでバスを降りて3日間滞在しました。宿も地図も金もないが、何とかなるんですね。そんな旅をして帰ってきたら、お隣さんがね、教会の設計してくれない？っていうんですよ。

富島：ロンシャンってアルプスの山のなかにある有名なやつですよ。

宇野：ええ、ペルフォートっていうんですよ。そんなんで隣の

人の依頼で、教会の設計してね、帰ってきてから。クリスチャンじゃないですけど集会なんかに参加して。それが建築士会かなんかの賞もったりしてね。献堂式に出て、別の牧師さんに出会って、共鳴してもう一つ作ったり。人間って面白いですよ。

安田：宇野さんが得意としているのは病院という印象でした。



宇野：僕がよく言うのは、建築というのは、人の生活空間ですよ。宇野はよく病院の専門家ですよと言われるけど、建築の専門家です。住宅もやるし病院もやるし学校もやるし、お墓もやるしね。だから、動物の生活空間もやります。牛の糞尿処理はね、それは農家の人が生活の為に牛を飼ってね、出てきたウンチがみんな困るんでね。国から補助金もらって、堆肥にしたと。そういう生活空間をやります。朝起きて寝て、生まれて亡くなるまでが、生活の空間ですよ。

それともう一つは地域です。アメリカやヨーロッパでなくて、今の地球上のこの点。千葉のこの点ですよ。千葉県内に生活する人のための生活空間をつくと。今何やってるのって言われたら、医者への応援団ですよ。今はね。病院なり医者の。ある時は学校の応援団だったり、宗教建築だったり。

(休憩を挟んで)

加藤：(壁の写真を見ながら)あれは新しそうですね。

宇野：これは新しく無いですが仕事始めた頃、市から受けた思いのある福祉作業所。木造はいいよねえ。これはね渡辺さんに基礎だけ頼んで。今は彼と明智隆夫さんに頼んでますね。構造屋さんで顔見えないとね。

筈谷：パートナーとしてですよ。

宇野：組んでやりますからね。

安田：今、パートナーって言葉でましたね。

宇野：やっぱりね下請けじゃないよ。ああいう言葉は失礼だと思うよね。ぼくは病院をやってますでしょ、あっち(千葉)で10年、こっち(袖ヶ浦)で10年くらい。こっちの院長のお兄さんは早稲田の建築科です。忙しいから宇野さんどうって、忙しいお兄さんの応援団設計者として入ったんだよね。それで、平成通りに橋架けようってなって、でかい道路に橋かけられないよ、でもそれは建築基準法上架けられるんです。そのときに僕が計算するわけじゃない、世の中には構造設計者がいます。僕はトータルの建築考えるけど、構造やら設備やら別の人がいるんですよと、こういう話をします。地鎮祭などの時にメンバー紹介しましようって行って、みんな来てもらって。もしこの橋が壊れたらこの人が悪いんですよってね。みんな笑ってますけどね。仲間ですから下請って意識じゃできないんじゃないかな。

加藤：結構そんな感覚の人も多かったですね(苦笑)。だんだんよくなると思います。